

被爆棕の木2世

昭和20年8月9日、長崎県に原爆が投下され、爆心地から1.6kmの浦上地区で樹齢300余年、高さ20mを超えた『棕の木』も被爆。強烈な熱風で幹は折れて黒く焦げたが、その後、『被爆棕の木』は折れた部分から新しい枝を伸ばし再生した。

65年経った平成22年、その根本に芽生えた『棕の木2世』は、寄贈者によって狛江市で鉢に植えられ、平成27年10月、むいから民家園に植樹された。

被爆体験を語り継ぐ木として、戦争・平和・原爆について語り合う契機になることを願う。

寄贈者 東野川在住 小林幸子
平成27年10月8日



被爆した棕の木1世
(平成27年9月長崎市撮影)
棕の木：ニレ科ムクノキ属の落葉高木

狛江市

作品番号：46601624

作品タイトル：『被ばく棕(むく)の木2世』

作家：

キャプション：

コレクション：OPO

ソース：

撮影地：東京都 狛江市（むいから民家園）

撮影年月日：2018/5/11

学術名：

クレジット表記：(c)OPO / Artefactory

モデルリリース：なし

プロパティリリース：なし

ピクセル数：5065px × 3435px

印刷サイズ：42.9cm × 29.1cm

データサイズ：11.5MByte

ファイル形式：JPEG